資料
平成 18 年 6 月 15 日受理

海野勝珉彫金作品の調査報告

ー「蘭陵王置物」「太平楽置物」に関する制作技法の調査記録ー

Report on Metal Works of Unno Shomin

● ペルトネン純子[1)]、鳥田稔弘[1)]、三船温尚[1)]、大熊敏之[1)]、岡本隆志[2)]
PELTONEN Junko[1)], TORITA Toshihiro[1)], MIFUNE Haruhisa[1)], Ohkuma Toshiyuki[1)], Okamoto Takashi[2)]
[1)] 富山大学芸術文化学部／ The Faculty of Art and Design, University of Toyama
[2)] 宮内庁三の丸尚蔵館研究員／ The Museum Of The Imperial Collections

● Key Words: Metal Crafts, Metal Technique, Traditional Metal Technique, Chasing, Hammering, Unno Shomin

要旨

明治期の彫金師、海野勝珉が制作した宮内庁三の丸尚蔵館が収蔵する「蘭陵王置物」と「太平楽置物」を平成17年8月11日、三の丸尚蔵館において次のような研究者が調査を行った。

鳥田宗吾は、象嵌技法を中心とした制作研究によって伝統工芸士と高岡市伝統工芸産業技術保持者という称号を持つ彫金技術者である。ペルトネン純子は、彫金・鍛金技法に関わる制作・技法・論文研究を行っている。三船温尚は、古代鋳造技法など鋳金技法に関わる制作・技法・論文研究を行っている。大熊敏之は、近代造型史、日本近代美術批評史などの論文研究を行っている。岡本隆志は、日本の美術・工芸に関する論文研究などを行っている。

本稿は、調査時に録音したテープを起こし、編集を加えて、調査内容を掲載するものである。最終的な報告書には記載されない結論を導くための観察・考察経緯、観察手順、観察の着眼点などを記録した本稿が、今後の海野勝_彫金作品の研究だけでなく明治の金属工芸品調査や研究に僅かながらでも寄与できることを目的としている。

1．「蘭陵王置物」観察記録

1．1「面（龍飾り）」

鳥田　着色方法は、煮込み着色[*1]ですね。全体の作りは赤銅[*2]の厚い板材を打ち出して、鍛金[*3]で作られています。龍の頭は鋳造[*4]で、おそらく無垢[*5]だと思う。

ペルトネン(以下PJ)　龍の頭は非常に重いので，私も無垢だと思います。

鳥田　龍と仮面は別々に作って、リベット[*6]2点で留めてある。

三船　リベットの直径は？

鳥田　2.5㎜程ですね。目玉の所も動くように別作りされて、金のリベットで留められている。動かせるように、余裕のある留め方がされている。面のキバは、赤銅で作られていて、金が被っていない状態で表現されている。顎アテも別に作られている。これらのパーツは、赤銅に金張り[*7]が施されている。

PJ　顎あての形状は、御椀型。底面中心に開いている穴の断面は周縁部分より薄いので、何かに打ち込んでこの丸い形を作ったのではないかな。内側には、多少鏨を使ったと思われる跡も残っているので、鏨で打った後、研磨したのではないかと思います。それから面の羽は、研磨してありますね。

鳥田　面の羽は四分一[*8]ね。

PJ　この羽もおそらく無垢で作ってあって、本体には鑞付け[*9]されていると思います。それから左側面の羽は、面との間に隙間があります。これは鑞付けした後に形の修正をしたような跡だと思います。右側面の羽の方には、そうした跡は見えません。

大熊　左の方をあとから修正していった？

PJ　かもしれないですね。もしかしたら右の方から付けて、方向を定めて、左の方を調整したのかもしれないですね。

面上の龍の背中の模様は、魚々子[*10]でいいですか？それから丸毛彫り[*11]も使われていますか？

鳥田　いや、魚々子と打ち鏨[*12]ですね。龍の羽の模様は四分一で、正面向かって右側の龍の羽の方がちょっと濃いね。

PJ　ちょっと濃いですね。

鳥田　龍の羽の取り付けはハンダの跡ですね。銀鑞だったらそんな黒い色にはならないと思う。これは全部、本体とは別に作って、その上に金張りしたのでしょう。

PJ　この龍の頭の髪の毛は？

鳥田　毛彫り[*13]で彫ってあるね。

PJ　片切り[*14]じゃないですか？鏨の進んだ跡と、彫り跡を見ると、片切りに見えるんですけど。片方が90度くらいになっていて、片側が斜めにいっているので。裏と表もそうですね。

鳥田　毛彫り鏨を傾けて彫っただけじゃない？こういう面は毛彫りの方が彫りやすいから。

PJ　でもこっち側は、片切りっぽくも見えますけど？
鳥田　片切りかもしれないね。毛彫りだと深く彫り下がるから、片切りだと浅くても広く彫れるから。たぶん金張り部分、あまり深く彫ると金がはがれるから、なるべく浅く彫ってるんだわ。
大熊　表の方は毛彫りを？
鳥田　毛彫りを少し強くやってありますね。
三船　そうしたらこれ、龍飾りを完成させてから、リベットですね？
鳥田　リベットで留めたあとも、その仕上げをしないといけないから、組んでからでないと色を付けられないわ。
三船　別々に作って、リベットで組んで、仕上げて組み立てて着色？
鳥田　そうそうそう。
PJ　この龍は、赤銅ですか？
鳥田　それは四分一ですね。四分一に金を被せてあるね。
三船　ということは、この龍の顔と羽のところは、同じ四分一の一体ものだということですね。
鳥田　いや、違います。この龍の羽は、別に作って組んであるよ。鑞付けですよ。鑞付けのあとに，ハンダで修正をしたかもしれない。
PJ　じゃ、この龍の羽は、四分一。でも黒四分一[*15]てことですか？
鳥田　うん。ちょっと黒いですね。で、ちょっと待って。この龍の羽の色、金じゃない色だよ。純金[*16]の色は、面の顔の色が純金の色で、この色はちょっと違うよ。ちょっと白っぽくない？これ、青金[*17]を使っているんじゃない？この龍の羽は、18金[*18]下の青金だわ。18金だったら、もっと青い、もうちょっと濃い色になるから。
大熊　黒四分一の上に青金で、平象嵌[*19]。それは面の羽も同じですね？
鳥田　うん。この面の羽もみんな青金だわ。面の羽の付け根の足、この足の色も、純金の色ではない。これも青金のちょっと濃い、金多めの青金で、純金ではない。
PJ　面の裏の凹みは、この作品のどこに合わせるんですか？
鳥田　頭の頭巾の角。
三船　まず面の重さを量りましょう。
大熊　お面の重さだけで、単体で0.12kg。棒を持っていない、お面をつけていない状態で、本体が4.44kg。実際に持ってみると、それなりにズッシリはしますね。手持ちだと。
三船　いやー、見た感じは軽そうですね。
大熊　中には詰まっているとは思えないんです。それなりにズッシリとした感じはします。ある程度の厚みのものを使っているとは思います。それから、蘭陵王の足の裏に銘があるんです。糸鞋をとっちゃうとやっぱり中は中空なんじゃないかなと？
鳥田　袴は空洞ですね。この中は詰まってないわ。銅の細いもので右袖と銀の房飾りの隙間を埋めてある。
注）棒について；無垢の棒の上面に、金の板を鑞付けで貼り付ける。周りの面も、金張りがしてある。棒には、ねじ山が切られている。ねじ山が残っているということは、硬い金属で作られている証拠であり、金で作られているわけではない。四分一で作られている。

１．２「手・顔・頭髪・頭巾」

PJ　右手の下側に出ている棒は、四分一ですか？そこは、おそらくネジを差し込まなくてはいけないので、ちょっと硬い材料ではないかと？
鳥田　四分一ですね。それで手も白四分一[*20]でしょう。普通の四分一かな？これ、手と顔は鍛金ですかね？
PJ　手は鋳物じゃないかなと思うんですけど。
鳥田　そうすると顔は四分一の鋳物だと思うなあ。眉毛が赤銅の象嵌。目玉は、赤銅が象嵌されていますね。黒玉の中心が白っぽくて、これは白四分一。髪の毛と顔は、赤銅の鑞付けです。髪の毛は毛彫りで、その上に頭巾を被っている。
PJ　耳の中に加熱したときに見られる変色が見えるので、おそらくこの耳周辺で鑞付けが行われたということがいえると思うんです。
鳥田　そうですね。耳の上の方だね。
三船　では、手と顔が鋳物という証拠を探して下さい。例えば、ピンホールや色の染みがあるとか。
鳥田　右手の下側にネジが切られた状態で差し込んであります。板材で、指、こういう風な状態にはできないと思います。
PJ　耳の穴の奥が、鋳肌に似ているんですよね。
鳥田　ピンホールの跡だ。鋳物の傷。作品と同成分の金属を使って，平象嵌で埋めてあるんですよ。ここに白い点があるでしょ？
三船　鋳物ですね。ところでピンホールやゴミを埋めた象嵌[*21]の形が、正方形になっていますか？
鳥田　いや、丸いような感じです。
三船　頬骨のこの白いの？四角ですか、丸ですか？
PJ　鏨で押し込んでいるので。近寄って見ると、かなり黄色いですよ。
鳥田　鋳物だね。ピンホールは、3つ。そして頭巾は、金と青金の平象嵌の線象嵌がされていますね。一部、

線の平象嵌よりも広く見える部分は、板状の板の面象嵌。塊も埋めてありますね。

PJ　頭巾の稜線上の凹線は、布の表現でしょうか。

鳥田　それは鏨で彫って、わざと作っているんじゃない。頭巾は、別作りで、リベットで留めてあると思うんですけど。

PJ　頭巾には、リベットの跡のようなものが見当たらないですね。

PJ　見当たらないね。

頭巾の裏側には、とても綺麗な赤色が着色されています。裏側がこれだけきれいとなると、着色後に組み立てたんですかね？

鳥田　うん。ま、いつ着色をしたかはわからないけど、頭巾だけは別作りしてあっただろうね。そうじゃないと、頭巾の裏側の仕事はできないですから。

1．3「両腕（両袖）」

鳥田　右腕は銅の鍛金。銅線で紐を作ってある。

PJ　この右袖の前面の花弁は赤銅ですね。

鳥田　その花弁の中は、銀です。一番中心は青金だと思う。花びらは純金ですね。両腕の雲紋は、打ち出し[*22]用の均し鏨[*23]で雲の輪郭とって、縁を薄く突き出すんです。鋤出しですよ。

三船　鋤出しというのは、彫りですか？

鳥田　引っ込めているんだね。鏨で輪郭をとって，縁を一段ほんの少し均してきれいにしていくと、残ったところが浮いた状態に見えるようにしてあるんですね。

三船　着物の裾もそう？

鳥田　そうです。雲の周りを打ち込みの鏨[*24]で打っている。彫ってないんです。そして均し鏨で、均しをする。

PJ　右腕が終わったので、左腕に。

鳥田　左腕も一緒の技法でやられている。

PJ　装束を割ったところの下重ね、右腕の下部の装束の色が違いますよね？

鳥田　下は銀だね。それから、右腕の手首側の花紋は、花弁が純金、銀、その内側に赤銅。右腕の脇よりの花紋は、花弁が青金、中の細い線は銀、その内側四分一。右腕後ろ面の下側の花紋、花弁が赤銅、その内側に銀、その内側の5弁の花弁が金、その中に赤銅と四分一。それで、この家紋みたいな模様の中で、縁が純金で、銀に、あと赤銅みたいなものが象嵌してあるんですけど、別の花紋は青金なんですね。

PJ　前掛けの房飾りと袖の接続は、鑞付けだと思います。左側の房飾りに、フラックスか加熱の影響と思われる色が、房飾りの一番奥にあるんです。

鳥田　えぇ、焼けていますね。鑞付けでしょうねぇ。

PJ　ただし右腕は、差し込んであるだけかもしれないです。

鳥田　裲襠の金色の玉は、リベット式になっていると思う。一応、鑞付けしてあるけども、その上にリベットで重ねて、押し込んでピッタリ合わせてあると思うよ。

1．4「裲襠」

鳥田　裲襠の中の龍は純金で高肉象嵌[*25]されています。目は銀ですね。銀に、黒玉は赤銅の象嵌。裲襠の前面・腰ひも下の雲紋は、赤銅、黒四分一、白四分一、四分一、純金、青金、純銀、の材料が使われている。

三船　裏は同じですか？房飾りとリベット。

鳥田　裲襠の周りの房飾りが、リベットでとめられている。これ銀ですね。

三船　房飾りは銀の線彫り[*26]ですか？

鳥田　房飾りは、鋳物のような気がするんだけれど。

三船　え、そう？そうは見えない。

鳥田　鋳物ですよ。ものの高低は、相当厚いものからほじり出さないと、こういう感じにはできないんですよ。鋳物ならばきれいに型を削って仕上げて、それから鏨を入れていけばいいだけですから。房飾りは、本当に純銀じゃなくて、ちょっと質を落としてあるんじゃないかなと思うんだわ。純銀だったら、真空鋳造でないと、湯が回らないから。それにもし純銀で鋳物だったら、ピンホールだらけになる。そのために、ほんのちょっと割ってあるといい。それからもし純銀だったらね、房飾りの色はもっと黒くなっているはず。四分一のような色だわ。

三船　顔でさえ、象嵌して傷を埋めているでしょ。

鳥田　だけど、共金で象嵌したらわからなくなると思うけどね。

三船　でも線彫りした時に、ピンホールが出てもやっぱり象嵌したんですか？おおまかな房飾りの形を鋳物でつくったかどうかですよね？

鳥田　ちゃんと傷をひろったんでしょうね。

三船　板材を叩いて作ったんじゃないかなぁ？

鳥田　いやー、ここにリベットの跡がある。わからないくらいのリベットの跡。

三船　よく見つけますね。

鳥田　年数が経っているから見える。仕上がった時は絶対に見えないよ。年数が経って、ほんのちょっとした隙間に汚れが入ったから見える。房飾りは四分一。でも白四分一に近い程の四分一だね。銀がちょっと余計に入った四分一。

三船　なんで私が鋳物じゃないと思うかっていうと、光すぎているんですよね。
鳥田　これ、ヘラ仕上げしてあるもん。
三船　ヘラ仕上げ？彫った上も？
鳥田　いやいや、彫る前に、全部十分に削って、きれいに鋳肌をなくしてしまってから、ヘラ仕上げしてある。で、その上に鏨が入れてある。
大熊　次は、帯ですね。
鳥田　この帯は、別作りで象嵌かな。完全な象嵌にしてあるわけではないね。この房飾りつける前に、この帯をつけてしまってあるんだね。
三船　裲襠背面の龍の彫金はどうですか？
鳥田　背面の龍の彫金は、高肉象嵌ですね。金の高肉象嵌。前面と同じですね。目玉は銀に、黒玉は赤銅。四分一にしろ、赤銅にしろ、黒四分一にしろ、みんな砥ぎ切り象嵌[*27]のような技法だと思う。全体が均し仕上げで、研ぎはしていない。
三船　砥ぎ切り象嵌？
鳥田　普通なら一段彫り下げて、紋金を埋めて、縁を締めて埋めるのが普通なんです。でも研ぎ切り象嵌は，一段彫り下げて、縁にできたカエリ（アリ）を叩いて，掘り下げた側に倒して，掘り下げた場所にはめ込む板（紋金）をきっちり打ち込んで、それで縁を仕上げなくてもいい仕事をしている。
三船　アリを切った時の、縁の盛り上がりを先に潰しておくんですね？仕上げが楽だから？
鳥田　えぇ。後は綺麗になるということですね。どれもこれもみんな砥ぎ切り象嵌技法ですね。一般であんまり砥ぎ切り象嵌って、知られてないんです。だけど東京では、砥ぎ切り象嵌をやっているはず。

１．５「紐」

鳥田　紐は、象嵌してあるね。
PJ　裲襠全前にある紐の一番端が、ウエストの横で削られています。おそらく裲襠背面のベルトを取り付けるために、紐の端は、削られている必要があったと思うのですが？
鳥田　そうですね。紐は、本体に象嵌されているね。ということは、やはりこの帯の部分は、前の紐のところで固定されている。

１．６「袴」

鳥田　袴は、鍛金で作られていて、本体に差し込まれてあるんだと思う。袴の象嵌はみんな高肉象嵌。袴にはあんまり赤銅がないね。黒四分一と四分一と、白四分一と、銀かな。四分一は3種類入っているわ。この塊の雲は全部砥ぎ切りだね。
大熊　成型としては腕の部分と同じような形ですね？
鳥田　中にヤニ詰めて形を整えるという方法だね。袴の下にあるひだの辺りには、象嵌が入っているんだけれど、別な部品を袴のすそに差し込んでいるんじゃないかと思うんだわ。糸鞋に、袴の下部としてのひだを先に接合してある。この接合されたものを，さらに袴に接合させてあると思います。
大熊　袴全体は、鍛金ですか？鋳金ですか？
PJ　袴の大きな形は、鍛金でできると思います。
大熊　袴の裾のひだの部分の色が違いますよね。
鳥田　黄色っぽいわ。これ、鋳物なのか、わからないよね。ただし糸鞋の下というか裏底は四分一なんだけれども、糸鞋本体は，銀が黒く変色した状態なんじゃないかなあ。
鳥田　糸鞋は鍛金？鋳金？
PJ　鍛金ではないかと思います。
鳥田　袴の裾のひだは、無垢だわ。純銅の塊を、彫り出して形を作ってある。四分一とか銀とかそういったもの、嵌め込むのにでも、板みたいなものだったら弱い。
PJ　そうですね。
鳥田　以前ケース内のものを見たとき、袴のどこかに穴が開いていると思ったんだけれど。
PJ　穴はこれですね？
鳥田　あ、それだ。うん。やっぱりあった。それと後ろに垂れる袍の裏面は平象嵌だわ。銀、赤銅、青金、金の平象嵌がしてありますね。雲紋は、毛彫りですね。

１．７「組み立て方法」

鳥田　組み立て順番、自分だったら下半身の方から作って、それに、着せていくと思うけど。
PJ　足と胴体のバランスをみて、足をくっつけて安定するかどうかをみるという感じですかね？
鳥田　うん。足に関わる部分をやって、袍をくっつけて、安定させてから上半身にいくだろうね。
三船　これ全部のパーツに分けると？まず、両足。袍の後ろ、両腕、首から上、頭巾で分かれる？全部のパーツを別々に作って、完成させてから組んでいくんですか？
鳥田　両足だけでは立たないから、この袍を組んでしまっていると思う。
三船　これ両足は、左右二つに分かれるんでしょ？
鳥田　分かれないと、袴の内側の模様が作れない。真下から観察すると、別々で作ってから接合しているね。くっついている内側のところにまで象嵌してあるからね。

三船　まず足を一本ずつ作って、接合方法はリベット留めかな？そして、袍と足の部分が接合されて、物体として立つことができる。

鳥田　だから袴は、表面上に見えている部分だけではなく、実際にはもっと長いんだと思うよ。

三船　両足を別々に作って、合体させ、袍の後ろをつける。上半身と下半身は、固定された下半身に上半身を差し込む？

鳥田　上半身これ被っているよね。

三船　では、褌襠の前面の腰紐を堺とした部分はつながっているんですか？

鳥田　これは一枚もの。

三船　では、袍、腕、右手までが完成されていて、さらに、袴、腰より下の褌襠が完成させられていて、はめたってことですか？留め方はリベットでしている？

鳥田　差し込んであるだけじゃないかなー。

三船　両腕と褌襠が接合されていて、袴と腰から下の袍を合体させるでしょ。その段階では，接合された両腕と褌襠の下から手が入るから、頭部を固定できるのでは？

鳥田　う～ん。

PJ　褌襠前面と褌襠上半身背面だけが一体型で、後ろの上下の褌襠接合箇所は、ベルトで隠すということは、考えられないでしょうか？

鳥田　そういうこと考えられるね。そういえば、褌襠の金の玉もリベットだったと思うしね。

PJ　ということは、褌襠を作って、腕は後から接合すればいいですね。

三船　では、もう一度、組み立てる順番も含めて。褌襠背面のウエストから下の部分を先に作る。

PJ　そして褌襠前面、褌襠背面の帯より上の部分、両腕、頭が合体した状態のもを大きな上パーツとして作る。

三船　その出来上がった大きな上パーツは、接合された両脚、袍前面、袍背面、褌襠背面の帯より下が合体した大きな下パーツとリベットで接合される。

PJ　最後に、背面のベルトで留めているのかな？

三船　そういう接合方法にすると、すべてを合体する前に、内側から上半身の補強ができる。そうすると、褌襠の金は飾り？

鳥田　褌襠の金リベットも組み立て用だよ。それに、本体を丈夫にするための銀リベットも、打ち込んであると思うよ。それから褌襠の房飾りは、ある程度やわらかいから、両脚と上半身を組んだ後に房飾りの凹凸作ったりしたんじゃないかなあ。

三船　最後のリベット留めはどうするんですか？

PJ　最後は背面の帯で隠れた部分に何かがあると思います。

三船　いやいや、上半身と褌襠が一体になったものを被せるでしょ？それで、前面の褌襠と下半身とをリベット留めしているじゃないですか。ここが結構重要なリベットでしょ？ このリベットはどうやって留めるの？裏が空洞でもリベットは留まるの？

PJ　リベットを打つときは、内側に支えとなるものがないとキツイですよね。

鳥田　最後のリベット留めは、袍にリベットをしていると思う。

三船　最後の、この留め方さえわかればいいんだよね。これあれでしょ？もう全部研ぎ上げてから一気に組むんでしょ？研ぎ上げて一気に組んですぐ着色するんでしょ？

鳥田　うーん。そうだと思うけどね。

PJ　これ煮色してから組み上げてないですか？

三船　煮色してから？傷つかない？

PJ　袴の下のひだを組んでいない時だったら、中が空洞だから、当て金[*28]にあてることはできますよね。

鳥田　当て金が使えるんなら、褌襠の房飾りのところをリベット打ちできるね。銀のところは白く見せるんだから、リベットの跡も見えなくできるし。

三船　頭巾のところは、どこかリベット留めして、その後何かしているんですか？

鳥田　頭巾には、リベットの跡が見えないんだよ。

三船　だからやっぱり頭巾が最後でしょ？別々に色をつける方法かな。それしかないでしょ？

PJ　頭巾のこの奥に何か詰まってないですか？赤いの？

鳥田　あれ、何だろうこの頭巾の裏側の赤いの。あと思ったのはね、これ頭巾だけどこか差し込み式になっているんじゃないかと思う。

１．８「地金の厚み、組み立て、着色」

PJ　袍背面の厚さは、2㎜だと思います。

鳥田　袍前方は、5㎜くらいの材料を使っているんじゃない？厚い板を削って、二重になったように見せかけているから。

PJ　叩いて薄くなって穴が開いてしまった袴の裾のところを見ると、そこが1㎜くらいかな。袴全体の地金の厚みは、1.5㎜くらいと思います。

三船　房飾りの肩のところは、6～7㎜ありますね。褌襠につながる房飾りの付け根の方は、1～2㎜まで薄くなっているかな。

鳥田　袖は、二重になっているから2㎜以上の厚みがあるわ。厚みがあれば、リベット止めで十分動かなくなる。板の厚みが1㎜とか1.5㎜とかの厚みだと、リベッ

トは弱いと思うけど。

鳥田　頭巾は、リベット。ちっちゃいけどリベットの跡が、頭巾後頭部にあった。

PJ　この角、確認できる痕跡は微妙ですけど、直径2㎜くらいのリベット。そして、頭巾の中に銅のつながりがある。

大熊　それが実はリベットを受ける台であると？

鳥田　うん。ま、たぶんね。頭巾は2㎜以上の厚みがある。1㎝くらいから、削り出したんだと思う。それから、前掛けの房飾りはリベット止め。裲襠背面の右側から見るとわかります、裲襠の背面の帯の下部分に鋲が見えるでしょう？

PJ　挟み込んでいますよね。

鳥田　だから裲襠の房飾りの銀は、この金の鋲がリベットになって留めてある。それで銀が、裲襠の厚いところにまたくい込ませてある。この銀のところにリベットがある。

三船　リベットが下から出ていると一方向にしか入らない。

鳥田　二方向に出ているんだわ。長いリベット棒を作っておいて、ギュッと通して押し込んで、最後切って締めれば。

三船　着色はいつ？

鳥田　リベットのところも一緒の色になっているから、全部組んでから着色だね。

三船　そうかなあ。

鳥田　これ、全然動かないやり方をするという時は、ネジを使うかな。この作品は右手にネジが切ってあるから。

三船　ネジか？

鳥田　この頭巾の部分、表面から一段下がったところにネジで締める。一段下がったネジ穴だけを象嵌する。

PJ　はいはい。できますね。

鳥田　だから頭巾はもう、動かないと思うよ。だからそのために、この頭巾の裏側に分厚い銅が、受けにいるんだと思う。

PJ　煮色着色はいつやったんでしょうねぇ。頭巾が頭にくっついていて、背中に煮色が着いてないということは？

鳥田　だから、組んでしまってから色をつけているということですよ。そこは磨けなかったはず。銀の裏側のところもみんな、着色されていない元の色の感じが残っているところがある。

2．「太平楽置物」観察記録

2．1「兜」

鳥田　兜の飾りについている玉は、赤銅ですね。

大熊　周りの模様は？

鳥田　金線象嵌。兜の表の上方は、銀線象嵌。だけど下地は、四分一ですね。四分一の材料で兜の表を作って、黒い線のところは、銀で線象嵌されている。その上にまた細い銀線が象嵌されている。兜の縁は、四分一。模様は、金線で象嵌して、真ん中の方の黒いところは銀ですね。でも、この金は、純金ではないね。兜の縁の唐草模様は、鋤彫りですね。

PJ　兜の羽などの装飾と兜本体は？

鳥田　別ですね。別のものを組んであるんですね。

PJ　リベット留めですね。兜の上の面とかが変色しているのは？

鳥田　金銷しでしょうね。

PJ　兜の下側は赤銅ですよね？

鳥田　赤銅だね。下は完全に赤銅だけど、なんで上が四分一なの？

PJ　いや。これ全体が、覆輪留めしてあるだけなんじゃないですか？

鳥田　二重にしてあるのか。象嵌は銀と金。縁のところは、鋤彫り。

PJ　兜のだいたいの厚みは、赤銅と四分一の板材が二重になっているので、何とも言えないですけど、あのくらいの兜の加飾をするならば、厚みは1㎜以上ですね？

鳥田　1㎜以上ですね。赤銅と四分一はそれぞれ1㎜程ずつのを使っているだろうから、最低限2㎜程の厚みになっているだろうねえ。

PJ　縁の仕上げは、覆輪止めですね。

鳥田　兜の紐は銅線。房は？

PJ　太い銅の塊を削りだした感じですね。

2．2「頭部、顔、髪の毛、襟元」

鳥田　頭部は、おそらく鋳物だね。顔は、四分一。頭部の髪の毛は、打ち込み。削った跡まで残っている。衿のところは銀ですね。銀が黒くなって傷がある。象嵌されて、鑞付けされている。

PJ　あきらかな鑞付け跡ですね。

鳥田　右衿元にも銀鑞の流れた跡があるね。

PJ　太平楽置物は、流れ出た銀鑞の処理をあまりしていないですね。

鳥田　銀のところは鑞付けだけど、部分的には、半田かもしれないねえ。

2．3「肩喰、籠」

鳥田　肩喰の、龍の口みたいなところは、金銷しだね。肩喰の眉毛のスジは、純金の線象嵌がされているね。目玉も純金のようですね。目の縁は銅で象嵌されている。

大熊　肩喰の目の真ん中の黒い部分は？

鳥田　赤銅ですね。牡丹唐草の紋様は、金の平象嵌と四分一の地金に銀線。いや、金消しのような感じだね。でもなんで金がこんな黒くなる？全体的に金銷しをやってあるんだけど、口の中のところは銅の、鑞付けでしょうね。

PJ　あぁ鑞付けですね。鑞目が出ていますね。

鳥田　肩喰のキバは、銀。肩喰のウロコのような模様は、毛彫りで、金銷しを施してあります。で、袖のところは、銅の鍛金かね？家紋は赤銅に金の象嵌。中に金の象嵌に、四分一が象嵌されています。金の縁に、中が赤銅。で、中の細いところも金だわ。

PJ　肩喰の厚み、2㎜はないですよね？

鳥田　肩喰の厚みは、1.5㎜だろうね。根元の方が随分厚いよ。1㎝ぐらい。それと、これ半田付けらしき跡がある。半田で、四分一と銅のところをつないであるんだわ。

PJ　肩喰の下の布のような表情の部分は？

鳥田　ここは赤銅。金の平象嵌がされています。雲竜の模様。それから、籠というか、籠と袖の間の部分は、四分一でできていて、それに、金の平象嵌ですね。籠は、銅で作られている。籠の縁は、四分一ですね。

2．4「魚袋」

鳥田　魚袋の部分の魚の尻尾のようなところは、銅で、純金の線象嵌がしてあります。平象嵌です。それでそのほかの魚袋の部分は、四分一ですね。それから魚袋は、鍛金で四分一かな？

PJ　これぐらいの形であれば、鋳物で作らなくてもいいかもしれないですね。表面に荒し鏨がかけてありますよね？で、ちょっと象嵌がしてありますね？

鳥田　あ、本当だ。これ銀だね。銀の象嵌してあるんだ。ヒレもみんな象嵌かな？この魚袋の飾り、金銷しのような気がするわ。純銀の色ではないね。そしてその上に赤銅のリベットみたいな玉を、象嵌してある。

2．5「刀、鞘、弓」

鳥田　刀は、銀だよ。銀でもこれちょっと銅か何かを混ぜた材料で、硬くした状態にしてある。純銀だと、いくら締めてでもやっぱり軟らかいから。

PJ　刀の鍔は？

鳥田　鍔は、金銷しだろうね。十分に金銷しやってある。鞘の中は空洞です。それで、この鞘の本体の赤銅のところに、金の平象嵌がされていて、石目で荒らしたところに金銷しで金を埋めている。そして、研ぎだすと、石目のところだけ金が出てくるという、そういう砂地の表現がされています。この弓の矢のところは、板材で箱が作られて。ほとんど電気めっきですね。一部、平象嵌されたところもありますけど。

PJ　弓のところは、金銷しの焼き飛ばしが不十分だったんでしょうか、少し白っぽいですよね？

鳥田　うん、焼き飛ばしをしていないんだわ。これは水銀の色だよ。

2．6「鎧」

鳥田　鎧の縁の紐のような表現は、四分一？

PJ　金銷しが所々にあるような感じですね。

鳥田　鎧の金の金具のところは、板をちょっとのせただけの状態で、飾り。あとは赤銅の飾りのようになっていますが、リベットになっているんだろうと思います。

PJ　じゃこの鎧の金のところは？

鳥田　下地が銅で、それに鋤出し？それで金銷しがやってあるかな？

PJ　鎧の装飾というか、金と銅の隙間が、前面の鎧、背面の鎧、両方とも、ないと思うのですが？

鳥田　うん。これ、めっきのような気がするね。金銷しの色じゃないと思うよ。鎧の下の模様で、金の平象嵌してあるところは、四分一が象嵌されているかな？鎧前面のところは、赤銅を象嵌されている。　で、金の平象嵌。それで、袍前は銅ですけど、銅に青金の象嵌で、その象嵌の中は赤銅の象嵌がされています。そして袍のこちらの模様の縁は、純金の象嵌、その中は青金の象嵌。

2．7「帯、帯喰、平緒、手」

鳥田　帯は、四分一でできていると思う。

PJ　四分一で、別パーツですよね？

鳥田　うん、そうそう。それで帯喰の髪の毛とかは、象嵌。あとは金銷しだね。帯喰の目は、銀と赤銅。あと、銅。

PJ　帯の素材は？

鳥田　銀ですね。

PJ　この素材は、何ですか？

鳥田　手は四分一の鋳物ですね。平緒は、金銷しだね。色が青いでしょ？この白っぽいのは、水銀の色だよ。水銀が十分に蒸発してないんですよ。中は透かし彫り。透かしで模様だけ浮かせたところ、鳳凰、桐に

鳳凰はやはり電気めっきですね。あと、鎧の飾りの鈴は、どうも金みたいな気がする。

2．8「袍、袖」

鳥田　袍は銅。で、鍛金でしょうね。袍背面の厚みはね、薄く見せてあるんだわ。でもこの袍の前面、随分厚みあるよ。これ鎧辺りの袍の厚みは、4㎜くらいあるんじゃない？で、先の方を薄くして見せてあるだけで、実際はこれ、ここに見える厚みよりまだ厚いよ。4㎜以上あるわ。

PJ　4㎜以上？なんでそんなに分厚いんですかね？

鳥田　うーん。こういう調整で丈夫にくい込ませるために作ってあるんじゃない？袍の模様のところ、肉象嵌は、赤銅に金の象嵌。あるいは、金に四分一。中の方は、四分一。で、四分一のまわりには、金の象嵌。青金の肉象嵌のところは、赤銅の象嵌。赤銅の縁に、中は青金かな？

PJ　青金ですね。ところで、袖の厚みは？

鳥田　袖は、これは、2㎜以上あると思う。

2．9「袴」

鳥田　袴と足首まで四分一で、鋳物で作られていると思います。模様は、平象嵌のように感じる。ただし、色が汚い理由がわからない。金の板が象嵌されていたら、こんな汚い汚れ方はしないと思うから。

PJ　そうですねえ。

鳥田　あとは何を象嵌して金色になっているかは分からないね。どうも銀みたいな気もするけど。この黒くなるところを見ると、金めっきしたのかねぇ？

PJ　銀の象嵌の上に、金めっき？

鳥田　うん。で、剥げたところが黒くなっていっている。とにかく、袴は、鋳物だろうね。

三船　あー、ちょっと鋳物っぽいかもしれないな。

鳥田　本体がずーっとこの上まであって、顔もくっついているんじゃないかなーって。で、衿をつけて、その上に、順番にものをくっつけていけば。

三船　重たいですか？これ？

PJ　7kgだったかな？

三船　7kgあるんですか？どこ持てばいいの？ここ持てばいいの？これは鋳物だ。こういう風に持ってこの重さだったら。

鳥田　この顔にあたる銅線の紐、土台が鋳物なら、象嵌して固定したらいいんですよ。

2．10「脛当て、踏懸、糸鞋」

鳥田　脛当ては、鋤出しですね。脛当ての地金は、四分一？銀かな？本体全体が銀でされているか、それに模様を鋤彫りかな。

PJ　でも、脛当ての金の模様を削った側面は、銀色なんですけど、でも一番奥の底面だけが赤いんですけど？

鳥田　赤い色？じゃ、脛当て部分は、銅に金鍍しだわ。それで脛当ての玉は、赤銅だろうね。

PJ　脛当ての下部についている紐、つなぎ目がないんですが？

鳥田　銅は鋳物できないからねえ。だけどこの紐、純銅の色だもんね？

PJ　でもつなぎ目が、ないんですよ。

鳥田　これ例えば、模様を鏨で打ち込んで、切り抜く仕事があるでしょ。鎧金具の装飾のところも、打ち込み鏨で切ってあるんじゃない？鏨で、バンバンバンってたたいて切り抜く時に、斜めに角が入るんだわ。切れ目が。これはそうゆう打ち込みで切り抜いた跡じゃないかな？ただし脛当ては、グルッと巻いているのかねぇ？

PJ　巻いて、最後にリベットでくっつけて、その後にメッキしている？

鳥田　そうそう。それで紐はね、脛当ての一番下のところを広げる前に、

PJ　あ、銅の輪になっている紐を、入れてから、脛当ての一番下を広げれば、留まりますね。

鳥田　だから、踏懸は、脛当てを広げてから入れる。で、脛当ての裾と踏懸の接点は、縮めていけば、隙間がなくなる。

PJ　そして踏懸は？

鳥田　これは、銅で打ちもので作られている。

PJ　リベットとかで留まってないですか？

鳥田　リベット？鑞付けか半田付けか？

PJ　もしこの部分に鑞付けだったら、太平楽のほかの部分の鑞付けの跡を見ると、踏懸のどこかにはみ出ている気もするんですけど？

鳥田　踏懸の銅のところはこれ、金の平象嵌だね。

PJ　うん。

鳥田　この糸鞋は、銀で作られて、裏側は四分一の板ですね。

2．11「組み立て順」

鳥田　土台は鋳物でできていて、その鋳物に組み合わせていっている。多くの前面のパーツは、足にくっついた状態になっている。後ろも、この袴のだいぶ上までいっていると思う。顔と足のところまで、ひとつの鋳物で出来ているんじゃないかと思う。あ、首は首で違うわ。そうしないとはまらない。

PJ　基本的には、足に前面のパーツをつけて、背面

のパーツをつけて、腕をつけて、肩の辺りのパーツをつけて、そして頭部ですかね？

鳥田　そうだろうねえ。それと、銀の帯の下にリベットがあると思う。袴に袍を接合。鎧も全部、袍か袴に接合していると思う。

PJ　この後ろの長い矢なんかは？

鳥田　結局これもみんな、ベルトの陰で、リベット。あるいは、この鎧の下にもリベットあると思う。そして、首は、少し長めに作って、その上に衿をつける。

PJ　その後、衿を広げて、銅板に沿わせる。この衿と首は、完全に別々ですよね。

鳥田　袴から首と頭がくっついていると思うんだわ。で、それに、衿をかませて、袍とかも全部。そしてこの足の長くなっているところに、リベットでくっつけていけば、ここから半分のこの袍をくっつけていけばいい。

PJ　なるほど。

鳥田　これ、鋳物である程度出来ていたら全部、そういうものに、リベットで打ち込んでいけば。もの凄く丈夫に安定するわ。

三船　後ろに倒れないように、袍がきているわけね。

鳥田　そうそう。これは、四分一の絶対鋳物や。

三船　鋳物ですね。私も、思います。

注釈

＊1　**煮込み着色**（にこちゃくしょく）　硫酸銅と緑青をお湯に溶かし、その中に作品を入れて煮込む着色技法。

＊2　**赤銅**（しゃくどう）　銅と金の合金。銅95％：金5％の合金を、五分差しと言う。他に四分差し、三分差しなどがある。

＊3　**鍛金**（たんきん）　塊や板状などの金属を叩いて成形加工を行う技法を指す。鍛造（たんぞう）、打ち物とも呼ばれる。

＊4　**鋳造**（ちゅうぞう）　蝋、木型、石膏などで原形を作り、その原形をもとに型を作り、その型に金属を流し込み、原形どおりの形体を作る技法を指す。鋳金（ちゅうきん）、鋳物（いもの）とも呼ばれる。

＊5　**無垢**（むく）　材料の中に空洞が無いことを指す。

＊6　**リベット**　つなぎ目を目立たなくさせるために、素地と同じ材料を用いた棒状の材料のこと。

＊7　**金張り**（きんばり）　銅、銀、赤銅、四分一などの材料に、薄い純金板を鑞付けにて取り付け、厚い純金板に見せる技法。

＊8　**四分一**（しぶいち）　銅と銀の合金。銅75％：銀35％。朧銀（おぼろぎん）とも呼ばれる。

＊9　**鑞付け**（ろうづけ）　本稿中では銀鑞を用いた、金属加工のための接合方法を指す。

＊10　**魚々子**（ななこ）　金属面に魚々子鏨で細かい粒子を打ち込んでいく技法。斜子、魚子とも書く。

＊11　**丸毛彫り**（まるけぼり）　丸毛彫り技法、またはその彫りに使用する鏨のこと。基本的には毛彫り鏨の先を少し丸めた形状をしている。

＊12　**打ち鏨**（うちたがね）　打ち出し技法に用いられる鏨を指す。打ち込み鏨、打ち出し鏨とも呼ばれる。

＊13　**毛彫り**（けぼり）　毛彫り技法、またはその彫りに使用する鏨のこと。先が三角形に尖った刃鏨で、金属の表面に毛髪を表現することや、毛のような細かい線を彫ることができる技法。

＊14　**片切り**（かたきり）　片切り彫り技法、またはその彫りに使用する鏨のこと。先端が一文字になった刃鏨で、金属面に一方を深く、他方を浅く入れて太い線を彫り、墨絵の濃淡表現と同じ効果を上げる技法。

＊15　**黒四分一**（くろしぶいち）　四分一と純金1％～2％の合金、もしくは四分一と赤銅の合金。

＊16　**純金**（じゅんきん）　金99.999％以上を指す。24金とも呼ぶ。

＊17　**青金**（あおきん）　純金と銀の合金。22金、20金、14金などいろいろある。

＊18　**１８金**（じゅうはちきん）　24分の18の純金を含み、残りの24分の6は、銀や銅などの他の金属が含まれていることを示す。

＊19　**平象嵌**（ひらぞうがん）　金属の上に金属板や線を嵌め込む象嵌技法の一つ。

＊20　**白四分一**（しろしぶいち）　銅と銀の合金。銀が60％以上で、銅が40％以下。

＊21　**象嵌**（ぞうがん）　金属工芸の象嵌の場合は、素地の面を掘り下げて異なった金属を嵌め込み、それぞれの金属が持つ色彩の違いで作品全体の色調を豊富にする目的のために用いられる。

＊22　**打ち出し**（うちだし）　金属板の裏面から表面に打ち出し、ヤニ台に貼り付けて、裏面または表面から鏨などで成形する技法。ヤニ出しとも呼ばれる。

＊23　**均し鏨**（ならしたがね）　打ち出し技法や象嵌の際に用いられる鏨を指す。表面をきれいに均すための鏨。

＊24　**打ち込みの鏨**（うちこみのたがね）　打ち出し技法に用いられる鏨のこと。

＊25　**高肉象嵌**（たかにくぞうがん）　生地に一段彫り下げたところに、他の金属（紋金）を嵌め込み、模様が生地より高く表現する方法。肉象嵌とも呼ばれる。

＊26　**線彫り**（せんぼり）　切り鏨で、生地の表面を線状に彫ること。

＊27　**研ぎ切り象嵌**（とぎきりぞうがん）　素地を一段彫り下げたあと、縁の盛り上がったアリを鏨で内側に叩いて曲げ、

さらに平滑に研ぎ上げて表面を仕上げた状態にする象嵌技法。

＊28 **当て金**（あてがね）　鉄でできた金属加工用の道具。必要に応じて形状を作るため、多様な形体をしている。金属をこの道具に押し当てて、金鎚や木槌などで成形を行う。

参考文献

1．鳥田宗吾『高岡銅器の彫金技法』国立大学法人高岡短期大学紀要第20巻、pp.257-272、2005

2．今淵純子、横田勝『金属工芸における表面着色』表面技術協会、表面技術Vol.51No.10pp.18-24、2000年

3．『ジュエリーコーディネーター検定3級』社団法人に本ジュエリー協会、pp.120-123、1997